YAMAHA

ホームシアター用5.1chスピーカーシステム

NS-P610

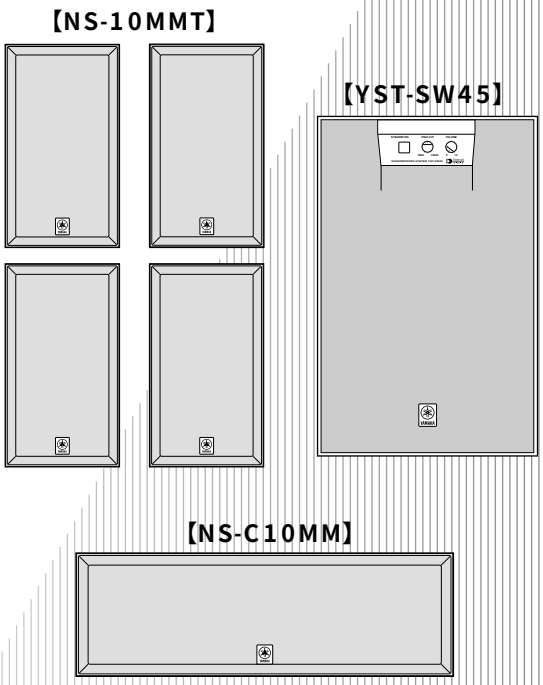
取扱説明書

ご使用の前に必ずお読みください。

このたびは、ホームシアター用5.1chスピーカーシステム NS-P610をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
NS-P610の優れた性能を充分に発揮させるために、ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みくださいますようお願いいたします。また、安全に関する警告事項を十分ご理解いただいた上でご使用ください。
お読みになった後は、必要なときにいつでも取り出して見られるよう、保証書とともに大切に保管してください。

本システムは以下の製品で構成されています。

メイン・リア用スピーカー (NS-10MMT) X 4本
センタースピーカー (NS-C10MM) X 1本
スーパーウーファー (YST-SW45) X 1本



目次

特長 2

⚠安全上のご注意 3

スピーカーの設置 7

接続のしかた 10
- 基本的な接続のしかた 10
- スーパーウーファーの接続のしかた 11
- スピーカーコードのつなぎかた 13

スーパーウーファーの使い方 14
- 各部の名称とはたらき 14
- オートスタンバイ機能をはたらかせる 15
- 音量バランスの調節 16

故障かなと思ったら 18

仕様 19

ヤマハホットライン サービスネットワーク ..... 裏表紙

特長

● ホームシアターサウンド

5.1チャンネルホームシアターの音場再生用に設計されたスピーカーセットです。メイン、センターおよびリアに同タイプのスピーカーを採用。各スピーカー間の音質バランスを均一に保ち、自然な音のつながりを発揮します。重低音の再生にはスーパーウーファーを採用し、迫力あるシアターサウンドをお聴かせします。

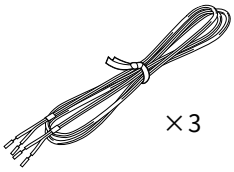
● スーパーウーファーには豊かな重低音を再生する、アドバンスド ヤマハ アクティブサーボ テクノロジー Advanced Y·S·T 搭載

● スーパーウーファーの電源を自動でオン／オフ

オートスタンバイ／感度スイッチの設定により、スーパーウーファーの電源を自動でオン／オフできます。主電源スイッチを押す手間が省けるだけでなく、省エネにもつながります。

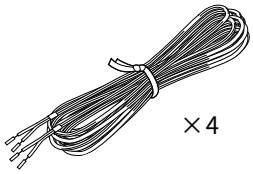
付属品がすべてそろっているか、確認してください。

スピーカーコード（4m）



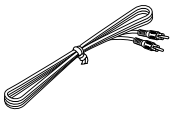
×3

スピーカーコード（10m）



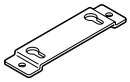
×4

オーディオ接続コード（1ピン、3m）



スピーカー取り付け部品

金具



×4

ネジ

×8

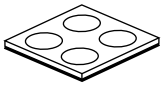
防振用パッド（NS-10MMT）

×2

固定テープ

×4

パッド（YST-SW45）



⚠安全上のご注意

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。
また、記載のイラストはイメージイラストで、ご購入の製品とは形状が異なる場合がありますのでご了承ください。

絵表示の例

この絵表示は、気をつけて頂きたい「注意喚起」の内容です。

この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です。

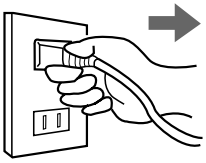
この絵表示は、必ず実行して頂く「強制」の内容です。

この絵表示は、スイッチを切り、電源プラグを抜く内容のものです。

警告

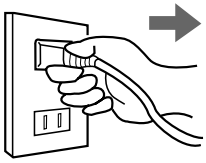
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く また、電源プラグの抜き差しがしやすいコンセントに接続する



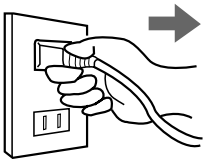
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

⚠ 機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



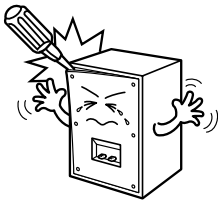
販売店に点検をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



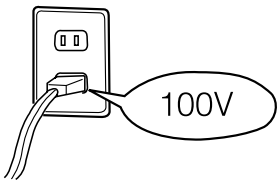
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解禁止 分解・改造を絶対しない（キャビネットをはずすことも含む）



火災・感電・ケガの原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない

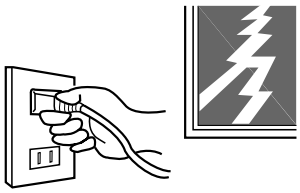


火災・感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

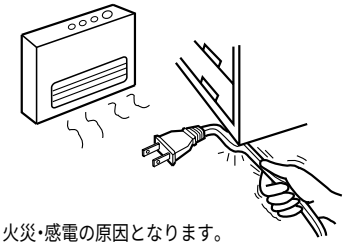
雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



感電の原因となります。

電源コード・プラグを破損するようなことをしない

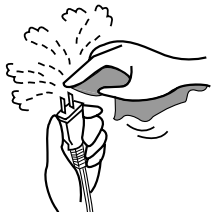
(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っぱる、束ねる、重いものをのせるなどしない)



火災・感電の原因となります。

- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

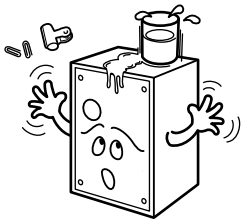
電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。

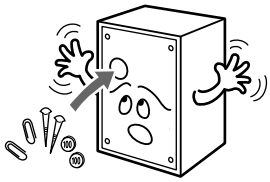
- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

水や金属類を入れたり、ぬらさない



火災・感電の原因となります。
本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。

ポートから内部に金属類や燃えやすいものなどを押し込んだり、手を入れない

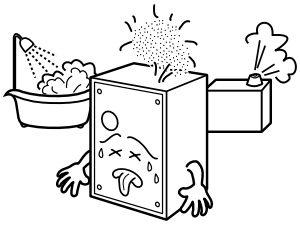


火災・感電・ケガの原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

本機をテーブルクロス等で覆わない

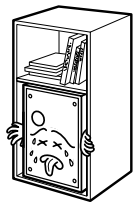
内部に熱がこもり、火災の原因となります。

湿気やほこりの多い場所に置かない



加湿器を使用する場合は、本機との間に十分なスペースをとり、加湿しすぎないようにしてください。本機内部に結露が生じると故障するだけでなく、火災・感電の原因となることがあります。

放熱をよくするために密閉された狭い場所には置かない

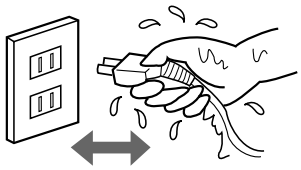


火災・故障の原因となります。ラックなどに入れるときは、本機の背面から10cm以上のすきまを開けてください。

⚠注意

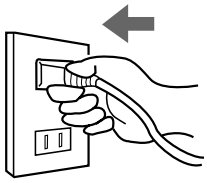
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

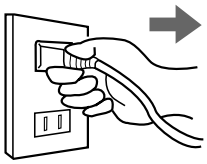
電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

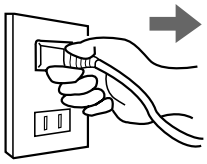
- 抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っぱらないでください。
- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



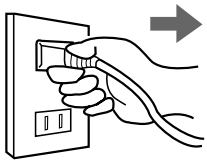
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



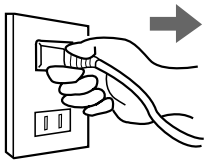
コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



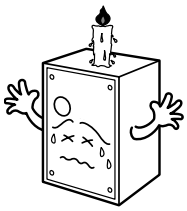
感電の原因となります。

長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



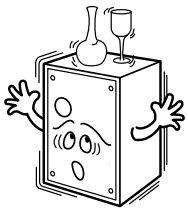
火災の原因となることがあります。

火のついたローソクなどを置かない



火災・感電の原因となったり、火傷をする恐れがあります。

陶器やガラス類などを置かない

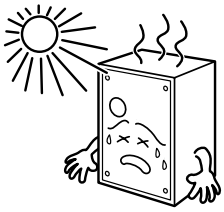


振動により落ちたり、倒れたり、割れたりするとケガをする恐れがあります。

⚠注意

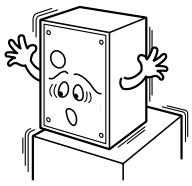
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



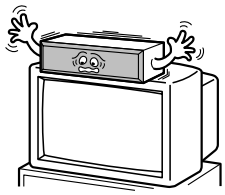
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



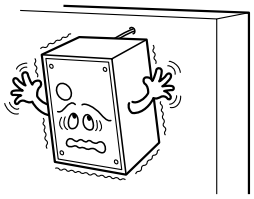
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

センタースピーカーは付属のすべり止めテープを使用せずにテレビの上に置かない



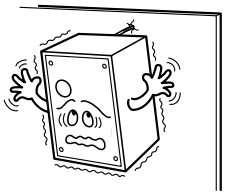
落ちてけがをする恐れがあります。

壁に取り付ける場合、くぎなどの抜けやすいものは絶対に使用しない



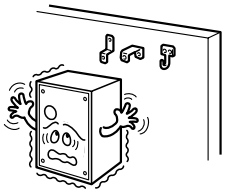
長時間の使用や振動でくぎが抜けて本機が落下しますと、けがをする恐れがあります。

本機を薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁には取り付けない



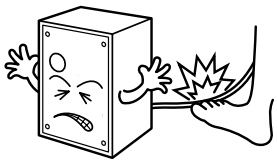
木ネジが抜けて本機が落下しますと、けがをする恐れがあります。

本機を壁や天井に取り付ける場合は、必ず指定されたスピーカーブラケットを使用する



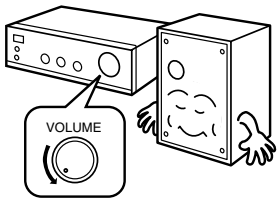
指定以外のブラケットを使用すると、落ちてけがをする恐れがあります。

スピーカーコードは必ず固定する



コードを足や手に引っかけ、スピーカーが破損する原因となります。また、壁に掛けて使用する場合、落ちてけがをする恐れがあります。

ソースをスタートする前には必ず音量を最小にする

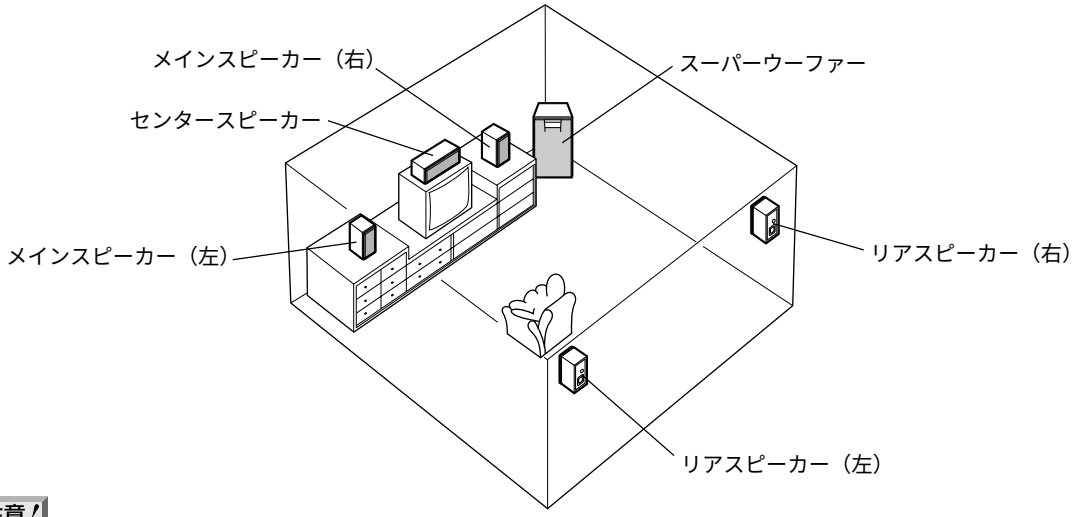


突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

スピーカーの設置

■ 設置のしかた

本スピーカーシステムは、メイン・リア・センター・スーパーウーファーの合計6台のスピーカーで構成されています。それぞれのスピーカーは下図のように設置すると、最も効果的な音場が得られるように設計されています。



注意!

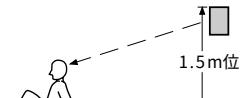
本システムは防磁設計となっていますが、コンピューターのモニターやテレビの近くに設置すると画像が歪むことがあります。そのような場合は、離してご使用ください。

メインスピーカー

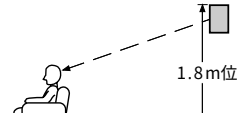
従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの両脇に設置してください。

リアスピーカー

お部屋の状況に合わせて、床や棚に置いたり、壁に掛けることもできます。
スピーカーの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5 m位、椅子に座って聴く場合1.8 m位が適当です。



直接座って聴く場合の高さ



椅子に座って聴く場合の高さ

センタースピーカー

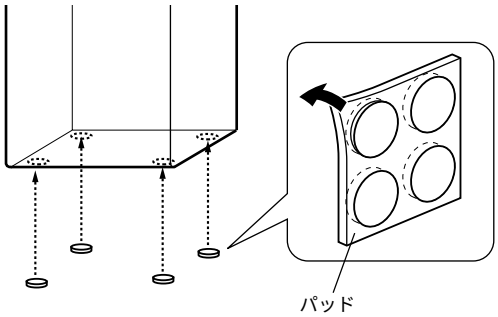
テレビを設置している場合は、テレビ画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの下または上など、できるだけテレビ画面に近いところに設置してください。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの下中央に設置してください。

スーパーウーファー

左右どちらかの外側に設置します。壁の反射を防ぐため、少し内側に向けて置きます。低音の聴こえかたは、スーパーウーファーを置く位置や聴く位置によって異なりますので、設置場所を変えてお試しください。

パッドの取り付け

固い床の上に直接スーパーウーファーを設置する場合は、下の図のように、付属のパッドをスーパーウーファー底面の四隅に貼り付けてください。振動によりスーパーウーファーがすべるのを防ぎます。



スーパーウーファー設置上のご注意

- スーパーウーファーは縦／横どちらの向きでも設置できます。本体前面および背面を下にして設置はできません。
- スーパーウーファーはパワーアンプを内蔵していますので、背面からの放熱を妨げないよう、壁から10 cm以上離して設置してください。
- 大音量で聴くと、家具や窓ガラスが共振したり、スーパーウーファー自体がビリついたりすることがあります。このような場合には、少し音量を下げてご使用ください。共振防止には、吸音効果が高い厚手のカーテンなどの使用をおすすめします。また、設置位置を変えてみると、共振が起こりにくくなることもあります。

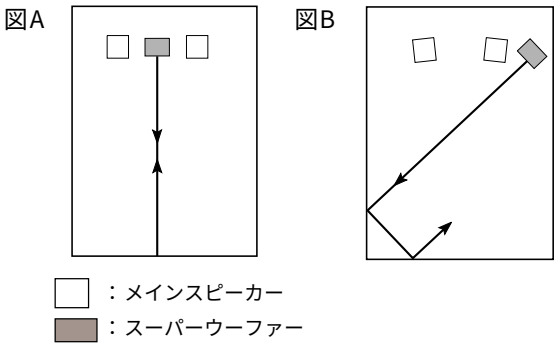
メモ

超低音域は

音楽信号の超低音成分は、波長が長いため、人間の耳ではあまり方向感覚がなく、無指向性に近い特性になります。したがって超低音域ではステレオ感もなくなるため、スーパーウーファーは1台でも超低音域再生の効果は得られます。

■ **セッティング時の向きは**

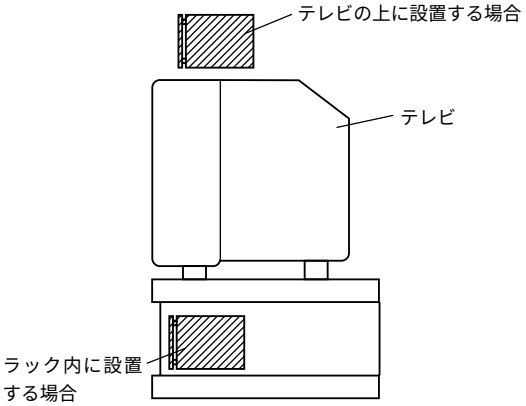
図Aのように正面に向けて設置すると、壁で反射した音がスピーカーから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまい聴こえにくいことがあります。これは部屋の中にできる定在波の影響によるものです。これを避けるため、スーパーウーファーは図Bのように斜めに設置すると効果的です。

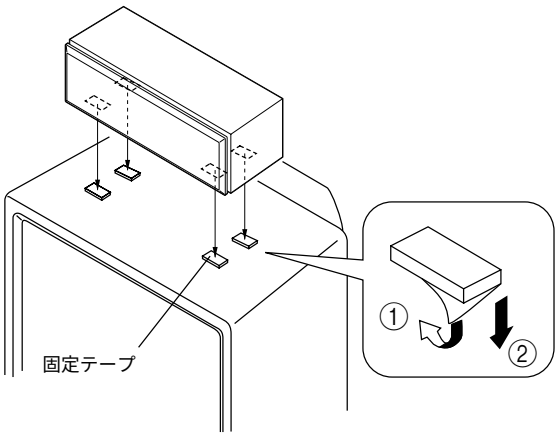


■ センタースピーカーの設置について

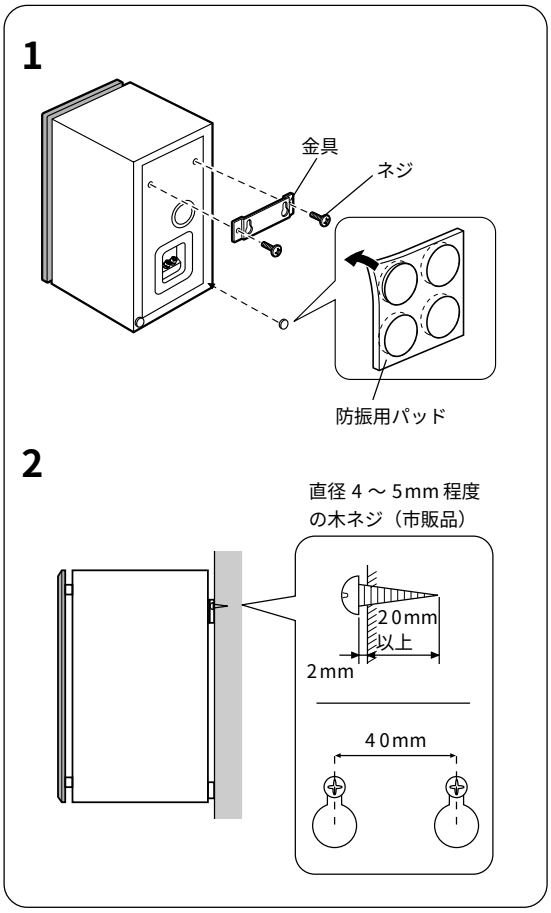
テレビの上または下に設置する場合

テレビの上に設置する場合は、必ず付属の固定テープ（2個）を図のようにセンタースピーカー底面とテレビの上面に貼り、固定してください。





■ リアスピーカーの設置について



リアスピーカーを壁に掛けて使用する場合は、付属の金具を使います。

1 付属のネジを使用して、金具をスピーカー背面に取り付けます。防振用パッドは、スピーカー背面下側の隅に貼り付けます。

2 リアスピーカーを取り付ける壁側に2本の木ネジ（市販品：直径4 mm程度）を40 mm間隔にて取り付けます。スピーカーに取り付けた金具の穴を木ネジに引っ掛けます。

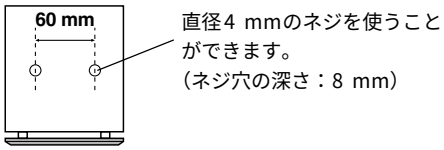
＊ 木ネジが、金具の穴の狭い部分に確実に入っていることを確認してください。

注意！

（重要なご注意です。必ずお読みください。）

- スピーカーの重量は1台約1.5 kgです。ネジを止める場所には、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニア板など、はがれやすい材質の壁には取り付けないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。
- 釘などの抜けやすいものは使用しないでください。長時間の使用や振動で抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。
- スピーカーコードを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、コードは必ず固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。
  取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

■ 付属の金具を使わずに、スピーカー底面の穴を利用して市販のスピーカースタンドなどに取り付けることもできます。



注意！

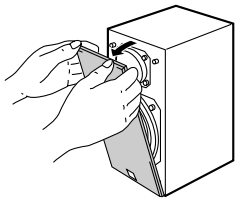
取り付け後は、スピーカーが確実に固定されているか確認してください。

サランネットの取り外し・取り付け

メイン・リア・センタースピーカーのサランネットは、はめ込み式で取り付けられています。取り外す場合は、サランネットの四隅を手前に引きます。取り付けるときは、サランネット裏側ホルダーと本体側ホールドピンを合わせて、押し込みます。（サランネットの布部分は押さえないでください。）

注意！

- サランネットを外した状態で、スピーカーユニットに手を触れたり、工具などで無理な力を加えないでください。音が歪む原因となります。
- スピーカーの振動板には手を触れたり、ショックを与えないでください。故障の原因となります。



接続のしかた

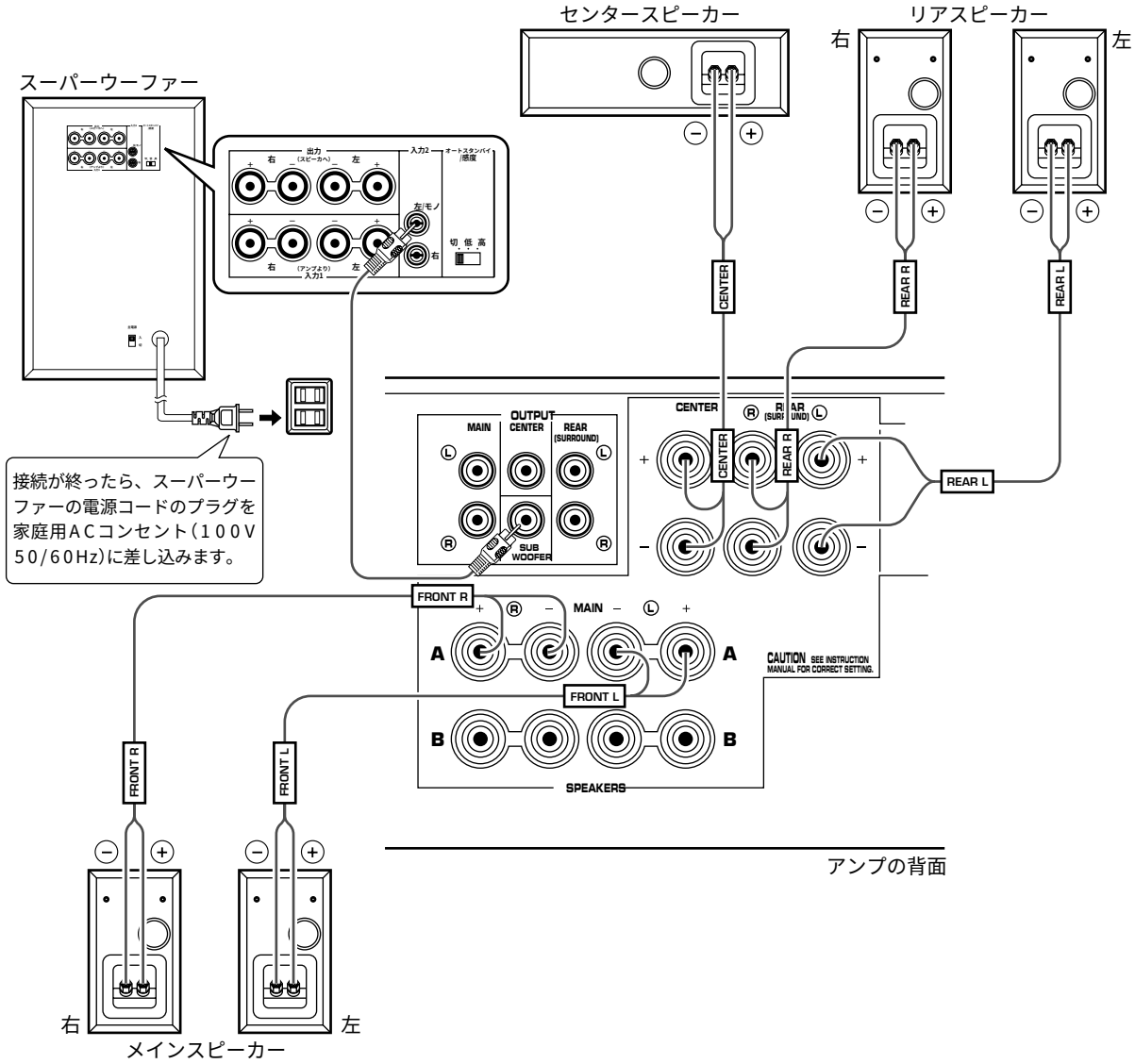
正しい接続のために

1 **接続をおこなう前に、接続する全ての機器の電源コードをコンセントから外してください。**
2 下記の説明に従って接続してください。
3 接続が終わったら、正しく配線されているか、もう一度お確かめください。
4 全ての接続が完了したら、各機器の電源コードをコンセントに接続してください。

注意!

- 接続する機器(アンプ、レシーバーなど)によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- アンプによっては端子の色が異なることがあります。端子の左、右(L、R)や極性(+、−)を確認して接続してください。極性を間違えて接続した場合、不自然な再生音になるばかりでなく、故障の原因となりますので注意してください。

基本的な接続のしかた



● メイン、センター、およびリアスピーカーをアンプに接続するには、付属のスピーカーコードを使用してください。
＊ スピーカーコードには、識別表示用ラベル（下記参照）が付いています。各コードの識別表示を確認し、それぞれを、対応するスピーカーに使用してください。
FRONT L ..... 左メインスピーカー用
FRONT R ..... 右メインスピーカー用
CENTER ..... センタースピーカー用
REAR L ..... 左リアスピーカー用
REAR R ..... 右リアスピーカー用

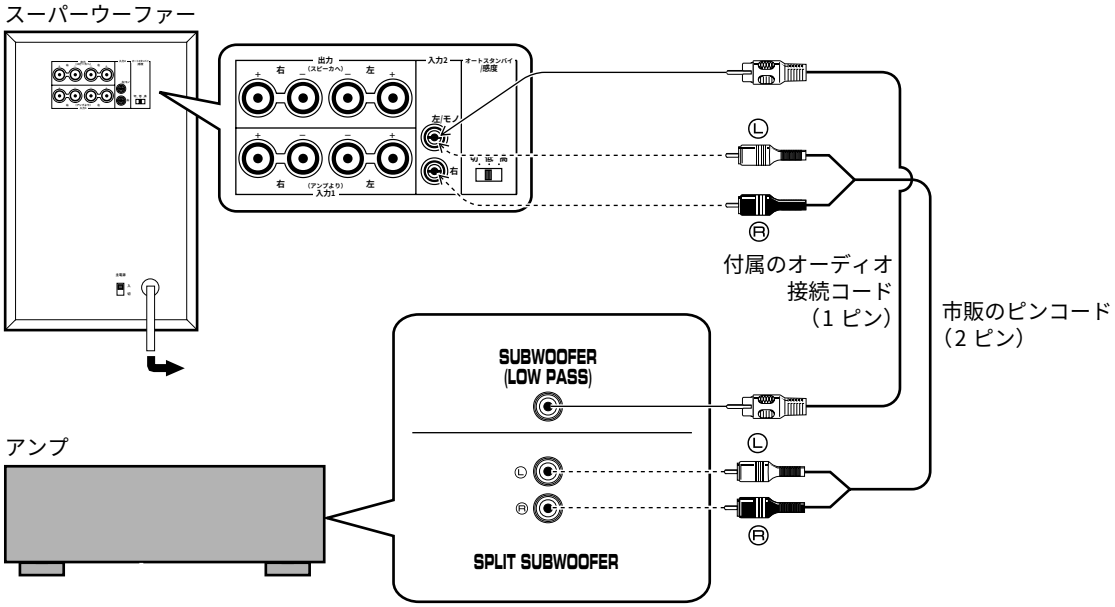
● スーパーウーファーは、付属のオーディオ接続コードを使用して、アンプのスーパーウーファー出力端子（ピンジャック）に接続してください。（下記、接続方法 1 参照。）
アンプにスーパーウーファー出力端子か、またはそれに代わるライン出力端子がない場合は、アンプのスピーカー出力端子に接続することもできます。（P. 12、接続方法 2 参照。）

スーパーウーファーの接続のしかた

1 スーパーウーファーをアンプのスーパーウーファー（サブウーファー）出力端子に接続する

付属のオーディオ接続コードを使用して、スーパーウーファー背面の**入力2 左／モノ**端子をアンプ（またはレシーバーなど）のスーパーウーファー出力端子に接続します。アンプにスーパーウーファー出力端子がない場合は、それに代わるライン出力端子に接続します。

＊ アンプのスーパーウーファー出力端子が2チャンネル（Ⓛ、Ⓡ）の場合は、スーパーウーファーの**入力2 左／モノ**端子をアンプ側のⓁ 端子へ、**入力2 右**端子をアンプ側の Ⓡ 端子へ接続してください。
＊ アンプにスーパーウーファー出力端子がない場合は、スーパーウーファーをアンプのスピーカー出力端子に接続してください。（P. 12、接続方法 2 参照。）



注意！
スーパーウーファーの**入力2 左／モノ**端子および**右**端子に入力した信号は、出力端子からは出力できません。

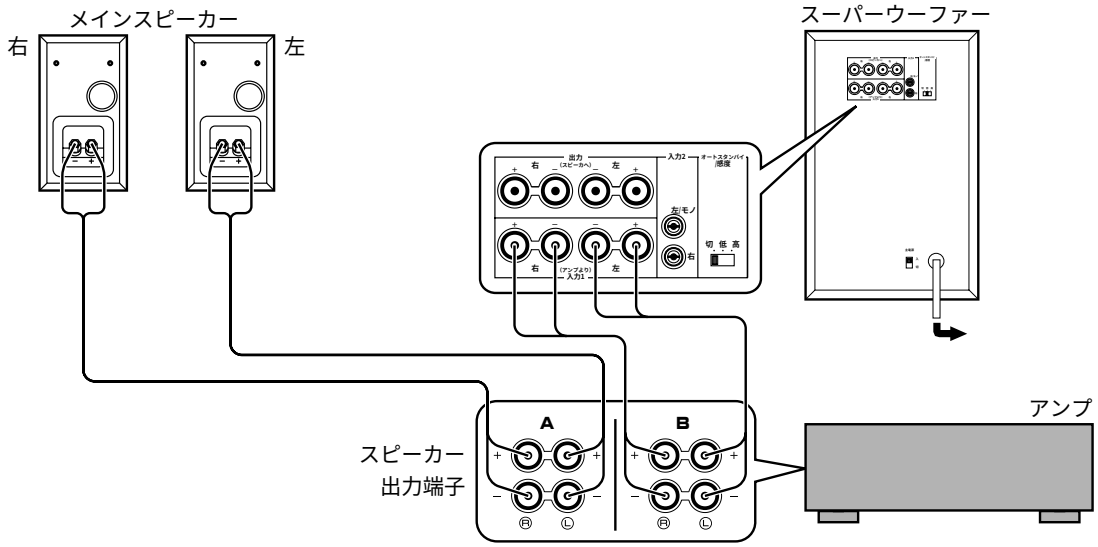
2 スーパーウーファーをアンプのスピーカー出力端子に接続する

アンプにスーパーウーファー出力端子がない場合は、下記の方法で接続してください。

アンプにスピーカー出力端子が2系統あり、2系統から同時出力が可能な場合

スピーカーコードを使用して、スーパーウーファーの**入力1（アンプより）**端子をアンプのスピーカー出力端子に接続します。メインスピーカーは、もう一方のスピーカー出力端子に接続します。
アンプ側で、スピーカー出力端子2系統から同時出力するように設定します。

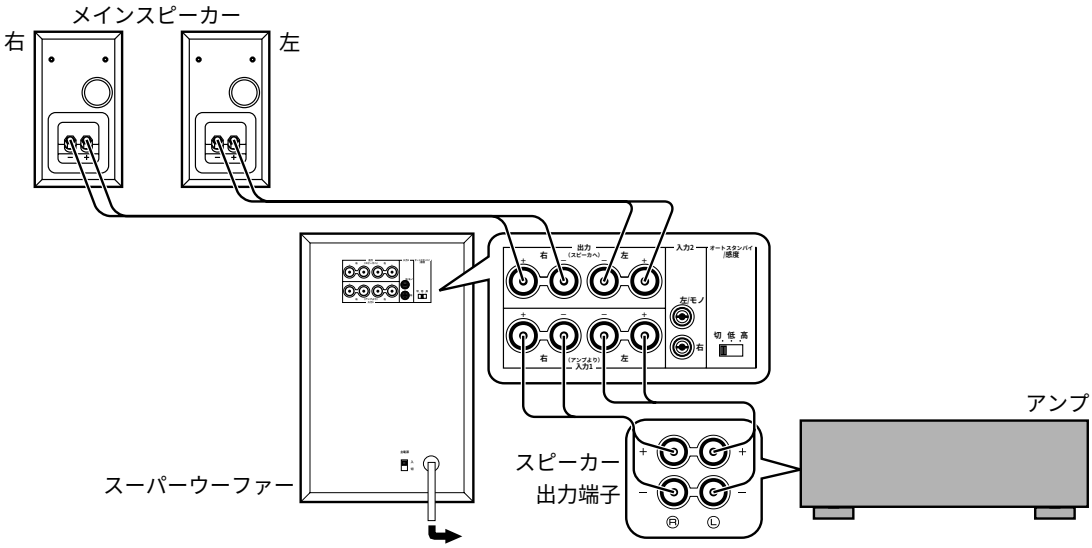
＊ アンプにスピーカー出力端子が2系統あっても、2系統から同時出力できない場合は、下記、**「アンプにスピーカー出力端子が1系統だけある場合」**の方法で接続してください。



アンプにスピーカー出力端子が1系統だけある場合

スピーカーコードを使用して、スーパーウーファーの**入力1（アンプより）**端子をアンプのスピーカー出力端子に接続します。メインスピーカーは、スーパーウーファーの**出力（スピーカへ）**端子に接続します。

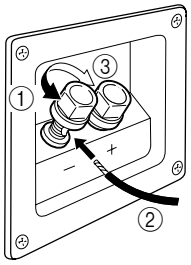
＊ メインスピーカーはスーパーウーファーを経由しての接続となりますが、音量、音質に影響を与えることはありません。

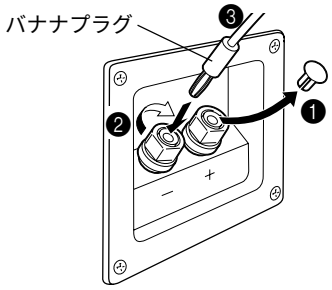


スピーカーコードのつなぎかた

メイン、センター、リアスピーカーにつなぐ場合

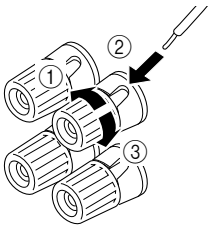
赤：＋端子
黒：－端子

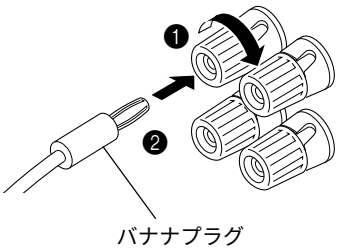




スーパーウーファーの入力 1 または出力端子につなぐ場合

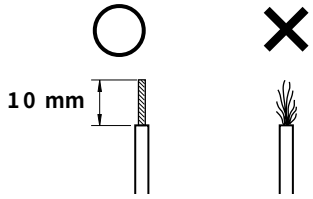
赤：＋端子
黒：－端子





接続する前に

スピーカーコード先端の絶縁部分（ビニール）を引き抜き先をよじっておきます。（よじりながらビニールを引き抜くと芯線がバラバラになりません。）



手順

① 端子を左に回してゆるめます。
② スピーカーコードをスピーカー端子の穴に差し込みます。
③ 端子を右に回して締めつけます。
芯線部分が穴からはみ出ていないかどうかを確認してください。

バナナプラグの場合（メイン、センター、リアスピーカーにつなぐ場合）

❶ プラスチックのカバーを手前に引いて取り外します。
❷ 端子を右に回して強く締めます。
❸ バナナプラグをスピーカー端子の穴に差し込みます。

接続が終わったら、バナナプラグを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

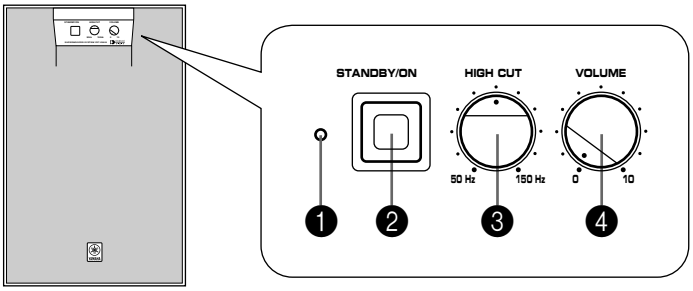
注意！

- スピーカーコードはプラス（＋）とマイナス（－）を間違えないように接続してください。
- スピーカーコードはプラス（＋）とマイナス（－）がショート（接触）しないように、しっかりと差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、音が出なかったり、雑音が出たり、スピーカーをいためる原因となります。
- スピーカーコードは芯線部分だけを端子の穴に接続します。コードの絶縁部分（ビニール）まで差し込むと音は出ません。
- スピーカーコードは手や足に引っかけないよう、固定してください。

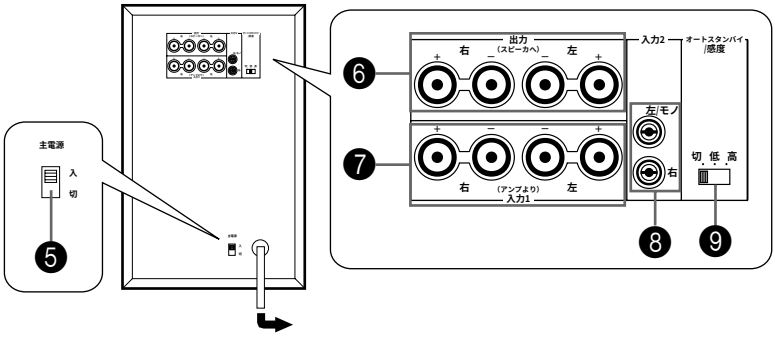
スーパーウーファーの使い方

各部の名称とはたらき

フロントパネル（前面）



リアパネル（背面）



❶ **インジケーター**
電源を入れると点灯します。ただし、オートスタンバイ機能がはたらいているときは暗くなります。

❷ **スタンバイ／オンスイッチ（STANDBY/ON）**
スイッチを押すと、インジケーターが点灯し、電源が入ります。スイッチをもう一度押すと、スタンバイ状態になります。

❸ **ハイカット周波数ツマミ（HIGH CUT）**
カットする高域の周波数を調整するツマミです。組み合わせるスピーカーや好みに合わせて調整します。

❹ **ボリューム（VOLUME）**
スーパーウーファーの音量を調節するツマミです。
右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

❺ **主電源スイッチ**
通常は「入」にしてお使いください。しばらくの間使用しない場合は「切」にしてください。

❻ **出力端子【出力】**
❼の入力端子【**入力1**】へ入力された信号をそのまま出力します。
メインスピーカーを接続する端子です。

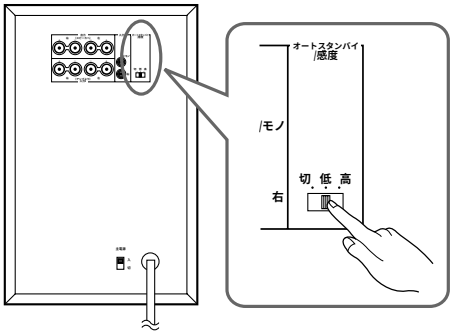
❼ **入力端子【入力1】**
アンプのスピーカー出力の信号を入力する端子です。

❽ **入力端子【入力2】**
AVアンプのスーパーウーファー端子またはアンプのライン出力端子（PRE OUTなど）からの信号を入力する端子です。

❾ **オートスタンバイ／感度スイッチ**
オートスタンバイ機能の入／切および感度を切り替えるスイッチです。
オートスタンバイ機能をはたらかせる場合は、「低」または「高」にします。（P. 15、「オートスタンバイ機能をはたらかせる」参照）

オートスタンバイ機能をはたらかせる

オートスタンバイ機能は、使用中にアンプからの信号がなくなると自動的にスーパーウーファーをスタンバイ状態にし、再びアンプからの信号を検出すると自動的にスーパーウーファーの電源を入れる機能です。



オートスタンバイ機能は、**オートスタンバイ／感度**スイッチ(❾)が「低」または「高」の位置のとき、下記のようにはたらきます。(通常は「低」の位置にします。)

アンプからの入力信号※1がない状態が**7〜8分**※2続くと、自動的にスタンバイ状態になります。
＊このとき、**インジケーター**(❶)は暗くなります。

↓

再びアンプからの入力信号※1を受けると、自動的に電源が入ります。(**オートパワーオン**)
＊**インジケーター**(❶)が点灯します。

メモ

- オートスタンバイ機能は**スタンバイ／オン**スイッチ(❷)が「入」になっているときにはたらきます。
- オートスタンバイ機能は、ある一定レベルの信号の有無により動作します。通常、**オートスタンバイ／感度**スイッチ(❾)は「低」の位置で使用しますが、電源の入／切が切り替わりにくい場合は、「高」に切り替えてみてください。「高」にしても改善されない場合は、アンプ側の出力レベルを少し上げてみてください。
- 使用環境によっては周辺機器からノイズなどの影響を受け、オートスタンバイ機能がはたらいてしまうことがあります。そのようなときは、**オートスタンバイ／感度**スイッチ(❾)を「切」にして、**スタンバイ／オン**スイッチ(❷)で入／切してください。

※1：オートスタンバイ機能が感知できる入力信号は、200Hz以下の低音成分(アクション映画の爆発音、ベース、バスドラムの音など)です。

※2：使用する環境によっては、周辺機器からのノイズなどの影響を受け、切り替わるまでの時間が変動することがあります。

注意!

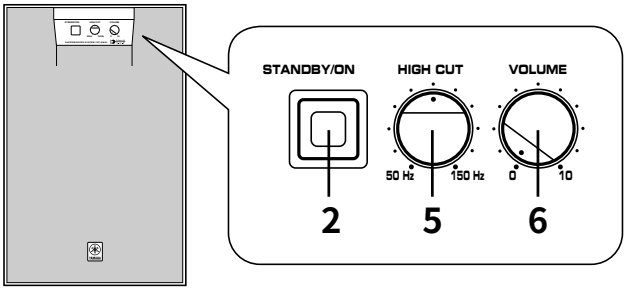
- スタンバイ状態のとき、スーパーウーファーは微量ながら電力を消費しています。長期間スーパーウーファーを使用しない場合は、スーパーウーファー背面の主電源スイッチを「切」に設定するか、または電源プラグをコンセントから抜き、スーパーウーファーの電源を完全にオフにしてください。

故障と思われるときは、すぐにスーパーウーファーYST-SW45の電源プラグをコンセントから抜いてください。

音量バランスの調節

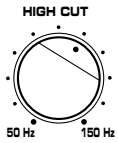
効果的な低音域再生をするためには、組み合わせるスピーカー（メイン）とスーパーウーファーの音が自然につながるように音量バランスを調整する必要があります。接続完了後、HIGH CUT（ハイカット）、VOLUME（ボリューム）の調整をおこなってください。
一度バランスを調節した後は、アンプ側の音量調節だけで全体の音量を調節できます。

フロントパネル（前面）



【調節手順】

1. アンプの音量を最小にし、アンプおよび各機器の電源を入れます。
2. スタンバイ／オンスイッチを押してスーパーウーファーの電源を入れます。
   ＊ インジケーターが点灯します。
3. 低音を含んでいるソースを再生します。
4. メインスピーカーの音量をアンプで調整します。通常お聴きになる音量にします。
   （トーンコントロールなどは、一旦フラットにしてください。）
5. ハイカット周波数（HIGH CUT（ハイカット））ツマミを110 Hzにします。



1目盛りは10 Hzきざみになっています。

6. スーパーウーファーの音量（VOLUME（ボリューム））を徐々に上げていき、メインスピーカーとの音量バランスをとります。

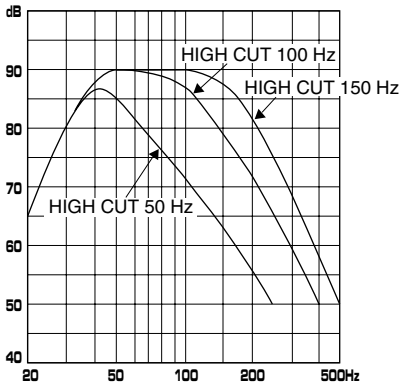
   スーパーウーファーがないときよりも若干低音が聴こえるくらいにします。

注意！

- アンプのトーンコントロール（BASS, TREBLEなど）やイコライザーを最大にして大出力でご使用になったり、市販のテストディスクなどに入っている20 Hz～50 Hzのサイン波や特殊な音（電子楽器、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など）を連続して大出力で加えることは、スピーカーの破損の原因となりますので絶対に行わないでください。また、低音が異常に強調された特殊なディスクでは、本来の音以外に異音が発生する場合があります。これは、スピーカーユニット自身の限界を越えた“バタ付き”現象で故障ではありません。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。
- テストディスクや電子楽器の信号、極端に歪んだ信号を大きな音で鳴らさないでください。スピーカーの破損の原因となります。
- フロッピーディスクやカセットテープなどの磁気媒体を、スピーカーの近くに置かないでください。データが破損することがあります。

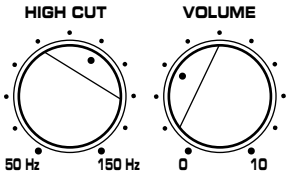
■ 周波数特性図

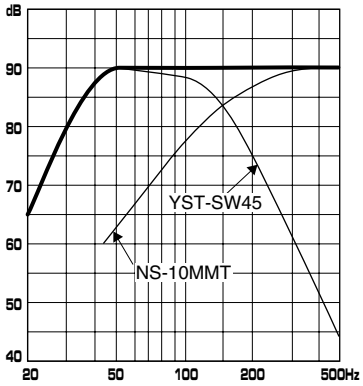
YST-SW45の音圧周波数特性



NS-10MMTとの組み合わせ

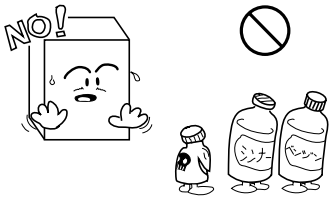
＊ HIGH CUTとVOLUMEを以下の値に設定した場合です。





お手入れには

ふつうの汚れは、軟らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布にふくませ、よくしぼって拭き取ってください。そのあと、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン、シンナーなどで拭いたりすると、変質したり、塗料が剥げることがありますので使用しないでください。また、接点復活剤はご使用にならないでください。



故障かなと思ったら

下の表にしたがってもう一度確かめてみてください．そのうえで正常に動作しないあるいは下記以外の何か異常が認められる場合は、スーパーウーファーの主電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお問い合わせの上サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
音がでない。	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
音が小さい。または音像が安定しない。	スピーカーの接続で、ＬとＲや極性 (＋、－) が合っていない。	スピーカーのＬとＲや極性 (＋、－) を正しく接続しなおしてください。

YST-SW45 のみ

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
スタンバイ／オンスイッチを押しても本機の電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。
	本機の主電源スイッチが「切」になっている。	主電源スイッチを「入」にしてください。
オートスタンバイ機能が突然はたらき自動的に電源が入ってしまう。	周辺機器からのノイズの影響を受けている。	スーパーウーファーを周辺機器から離して設置するか、スピーカーコードを置く位置を変えてみてください。または、オートスタンバイ／感度スイッチを「切」にしてください。
ソースの再生が終わっても自動的にスタンバイ状態にならない。	周辺機器からのノイズの影響を受けている。	スーパーウーファーを周辺機器から離して設置するか、スピーカーコードを置く位置を変えてみてください。または、オートスタンバイ／感度スイッチを「切」にしてください。
	オートスタンバイ／感度スイッチが「切」になっている。	オートスタンバイ／感度スイッチを「低」または「高」にしてください。
ソースの再生が始まっても自動的に電源が入らない。	オートスタンバイ／感度スイッチが「切」になっている。	オートスタンバイ／感度スイッチを「低」または「高」にしてください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー（スーパーウーファー）端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
オートスタンバイ機能が突然はたらき自動的にスタンバイ状態になってしまう。	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー（スーパーウーファー）端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
低音が出ない。または小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が入っているソースを再生してください。または、ハイカット周波数ツマミを右に回して設定値を上げてください。
	定在波の影響を受けている。	本機の設置位置を変えてみてください。
	フェーズ（位相）極性の選択が適切でない。	位相スイッチで極性を切り換えてください。
	アンプのサブウーファー（スーパーウーファー）端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
音が出ない。	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
	本機のボリュームが最小（0）になっている。	ボリュームを右に回して音量を上げてください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー（スーパーウーファー）端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。

仕様

メイン／リアスピーカー（NS-10MMT）

型式	2ウェイバスレフ、防磁型
スピーカーユニット	
ウーファー	9 cm コーン
ツイーター	2.5 cm バランスドーム
許容入力	40 W
最大入力	100 W
インピーダンス	6 Ω
再生周波数帯域	75 Hz～33 kHz
出力音圧レベル	88 dB/2.83 V/ m
クロスオーバー周波数	7 kHz
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	107×191×141mm
重量	1.5 kg

センタースピーカー（NS-C10MM）

型式	2ウェイバスレフ、防磁型
スピーカー	
ウーファー	9 cm コーン×2
ツイーター	2.5 cm バランスドーム
許容入力	50 W
最大入力	125 W
インピーダンス	6 Ω
再生周波数帯域	100 Hz～33 kHz
出力音圧レベル	91 dB/2.83 V/ m
クロスオーバー周波数	7 kHz
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	312×101×141mm
重量	2.3 kg

スーパーウーファー（YST-SW45）

型式	アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー方式、防磁型
スピーカーユニット	20 cm コーン(JA2162)
アンプ出力	70 W (100 Hz, 5Ω, 10 % T.H.D.)
カットオフ周波数	50 Hz～150 Hz可変(−24 dB/oct.)
再生周波数帯域	30 Hz～200 Hz
電源/電圧	AC 100 V、50/60 Hz
消費電力	40 W
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	235×365×318 mm
重量	9 kg

付属品

スピーカーコード(4 m)×3
スピーカーコード(10 m)×4
オーディオ接続コード(1ピン、3 m)×1
スピーカー取り付け部品：　金具×4
ネジ×8
防振用パッド(NS-10MMT)×8
固定テープ×4
パッド(YST-SW45)×4

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

＊「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

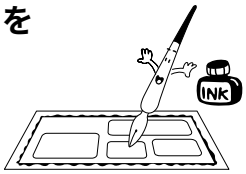
＊ 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

保証書の手続きを



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● **保証期間**
お買い上げ日より1年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**
◆ **技術料**　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
◆ **部品代**　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
◆ **出張料**　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **持ち込み修理のお願い**
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

YAMAHA

ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中沢町10-1
AV国内営業部　TEL (053) 460－3451
AV･IT品質保証部　TEL (053) 460－3405
住所および電話番号は変更になることがあります。

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター
TEL (03) 5488－5500(転送)
FAX (053) 460－2777
住所：〒430-8650　静岡県浜松市中沢町10-1
ご相談受付時間　10:00～12:00，13:00～17:00
(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道　〒064-8543　札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙　台　〒984-0015　仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏　〒143-0006　東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜　松　〒435-0016　浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋　〒454-0058　名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大　阪　〒565-0803　吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

広　島　〒731-0113　広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787

四　国　〒760-0029　高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九　州　〒812-8508　福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

Printed in Indonesia　V635210-2